

I 実践

1 本校の人権教育の目標

- (1) 人権尊重を基盤として、自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする態度を育てる。
- (2) 正しい見方、考え方、強い意志、豊かな感情をもった生徒を育て、励まし合い助け合う人間関係を培う。

2 本校の人権教育の努力点

- (1) 人権感覚や人権意識に関する意識調査や実態調査により、生徒の実態を把握し、適切な指導を進める。
- (2) 一人ひとりが個人として尊重され、互いに認め合い、励まし合える人間性豊かな学校づくりを推進する。

3 実践内容

(1) 「コミュニケーションの基盤に関するアンケート」の実施

全生徒に対して「コミュニケーションの基盤に関するアンケート」を年に2回実施している。項目は自尊感情に係わる項目が10、他尊意識に係わる項目が15の計25項目で行う。他者との関わりに関して苦手を感じているところや時期を経ての変容を客観的に把握することができた。また、生徒指導や、面談での資料としても活用することができた。

(2) 学校行事での取り組み

ア 修学旅行先からの「修学旅行だより」の送付

修学旅行先から独居老人へ絵はがきを出した。自分たちが地域社会の一員であることを再認識するとともに、お年寄りの方への思いやりの心を養うことができた。



【生徒が修学旅行先から絵はがきを出している様子】

イ 地区敬老会への参加

地区敬老会で吹奏楽部が、本校吹奏楽部卒業生を母体とした楽団と演奏の発表を行った。また、本校の放送委員1名が司会者として参加した。この活動を通してお年寄りとの交流の機会をもつことができた。



【司会の生徒の様子】



【吹奏楽部の演奏】

ウ 小中合同オリエンテーリングの実施

9月15日に小中合同でのオリエンテーリングを実施した。小中学生縦割りで学区内にあるチェックポイントを巡り歩いた。協力して目的を達成する過程を通して、互いに助け合い励まし合うことができた。また、小学生を導くことで中学生には規範意識が芽生えた。



【オリエンテーリングの様子】

(3) 学級での取り組み

ア 道徳 資料名「私は私だからよい」(内容項目1(5))

内容項目1(5)「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する」をねらいとした読み物資料を用いた授業を展開した。自分の長所について考えた後、読み物資料を読み、誰にも良さがあることを理解させ、あらためて、自分の長所を探すきっかけを与えることができた。

イ 学級活動 題材名「中間テストの結果から今後の学習について考えよう」

上記をテーマとした3～4人グループのKJ法による話し合いを実施した。自分の意見を言うことと、他者の意見を受け入れることにより、コミュニケーション力と他尊意識を向上させることができた。

ウ 学級活動 題材名「互いに相談をしよう」

ワークシートに自分の悩みを書き、それを小グループで互いに交換して読み合う。

1回目の交換ではワークシートに質問を記述する。ワークシートが自分のところに戻ってきたら質問に対しての回答を記述し、2回目の交換で小グループのメンバー一人ひとりから解決策を書いてもらう。この活動で、仲間の悩みを真剣にとらえることを通して、他者に共感し、他尊意識を向上させることができた。

4 成果

(1) アンケートの実施では、生徒にとって自身の他者との接し方を振り返るきっかけになり、自己理解につながった。また、教師にとっては生徒一人一人をより深く理解することができた。

(2) 学校行事では、それぞれ地域と密接に関わっているため、地域社会の一員としての思いを育むことができた。また、特にお年寄りに対しての思いやりの心を育むことができた。

(3) 授業の前後に行ったアンケートを比較して他者の悩みに共感する姿勢が強くなったと答えた生徒が増えた。

II 今後の課題

これらの実践を通して、他者の人権を尊重する感情の深まりを見ることができたが、自己の人権を守ろうとする態度の育成を図ることは難しかった。心の成長は長い時間をかけて育んでいくものなので、引き続き学校の教育活動全体を通して人権感覚や人権意識の向上を図っていきたい。